

読書会 5 月テキスト幸福論解説

河合隼雄著の幸福論の中で少し見方を変えてみることによって
幸福が身近になるという言葉は示唆に富む内容だったと思います。

又一家に一人明るく前向きな人がいるとそれで事が解決するかというと

そういう訳ではなくレーガン元大統領の娘パティ・デービスの著書「我が娘を愛せなかった大統領」によると、父は前向きで上昇志向の強い明るい人であったけれど、娘を虐待する母と娘の行動には無関心で、娘の心には全然寄り添ってくれなかったと書かれています。「お母さんは良い人だ！とくりかえすのみでパティはこの家庭生活に耐えられず家出をしようとしたり、麻薬に手を出したり男性関係も荒れてくる。拒食と過食を繰り返し死にそうなところにまで追い詰められる。彼女がどんどん下降する生活をしている間にレーガンは州知事になり大統領となってアメリカで考えらえる最高の上昇をとげる。一家に明るく上昇志向のある人がいても不幸な家族がいるということは、改めて幸福とは難しいものであることを考えさせると言う話はとても印象的でした。